



農林水産省における農福連携の推進について

～農福連携をめぐる情勢～

農林水産省 農村振興局
都市農村交流課 農福連携推進室

- 農福連携とは、障害者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組であり、農業、福祉における課題、双方の課題解決とメリットがあるWin-Winの取組として推進。

「農」と福祉の連携(=農福連携)

【農業・農村の課題】

- ・農業労働力の確保
※毎年、新規就農者と同程度の基幹的農業従事者が減少
- ・荒廃農地の解消 等
※再生利用可能な荒廃農地は全国で約9万ha

【福祉(障害者等)の課題】

- ・障害者等の就労先の確保
※障害者約964万人のうち雇用施策対象となるのは約377万人、うち雇用(就労)しているのは約94万人
- ・工賃の引き上げ 等

障害者等が持てる能力を発揮し、それぞれの特性を活かした農業生産活動に参画

【農業・農村のメリット】

- ・農業労働力の確保
- ・農地の維持・拡大
- ・荒廃農地の防止
- ・地域コミュニティの維持 等

【福祉(障害者等)のメリット】

- ・障害者等の雇用の場の確保
- ・賃金(工賃)向上
- ・生きがい、リハビリ
- ・一般就労のための訓練 等



労働力の確保



新たな就労の場の確保

目指す方向

1 農業生産における障害者等の活躍の場の拡大

障害者等の雇用・就労の場の拡大を通じた農業生産の拡大。



2 農産物等の付加価値の向上

障害の特性に応じた分業体制や、丁寧な作業等の特長を活かした良質な農産物の生産とブランド化の推進。



3 農業を通じた障害者の自立支援

障害者の農業への取組による社会参加意識の向上と工賃(賃金)の上昇を通じた障害者の自立を支援。



- 農福連携は、農業経営体による障害者の雇用、障害者就労施設による農業参入や作業受託など、近年、様々な形で取組が見られている。
- 自らの経営の中で、生産行程や作業体系の見直しを行い、生産の拡大など農業経営の発展につながっている事例も。

農業経営体が障害者を雇用 京丸園(株) (静岡県)

- 毎年1名以上の障害者を新規雇用。従業員100名中、障害者は25名(H31.4)。
- 障害者視点で農作業の体制を整備。作業効率化が進み、経営規模と生産量が拡大。
- 障害者雇用数に比例し売上増加(6.2倍に拡大(H9→H30))。



器具を工夫した定植作業



個人の目標を定め作業を実施

障害者就労施設が農業参入 (株)九神ファームめむろ (北海道)

- 地域における障害者活躍の場として設立。障害者20名(H31.1)が、野菜生産や一次加工を実施。
- 利用者から支援スタッフへキャリアアップ実現。
- 平均賃金は北海道平均の約1.6倍と高水準(H29)。



野菜の加工処理



地域食材をレストランで提供

J Aが核となるマッチング J A松本ハイランド (長野県)

- 障害者就労施設による農作業請負のマッチングを、J Aが核となって実施。
- 農家33戸が受け入れ、障害者就労施設8事業所の延べ1,041人が332回の農作業に従事(H30年度)。



作業内容の説明

企業が障害者雇用と農業参入 ハートランド(株) (大阪府)

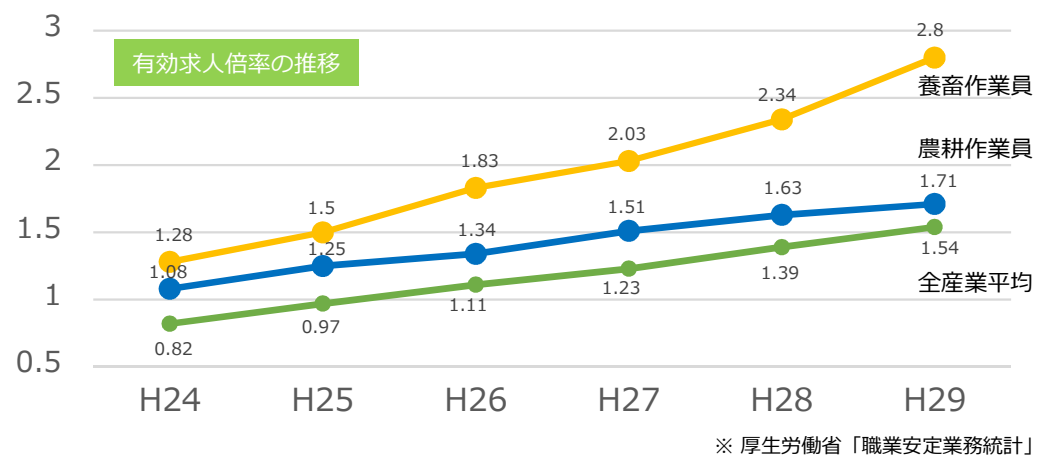
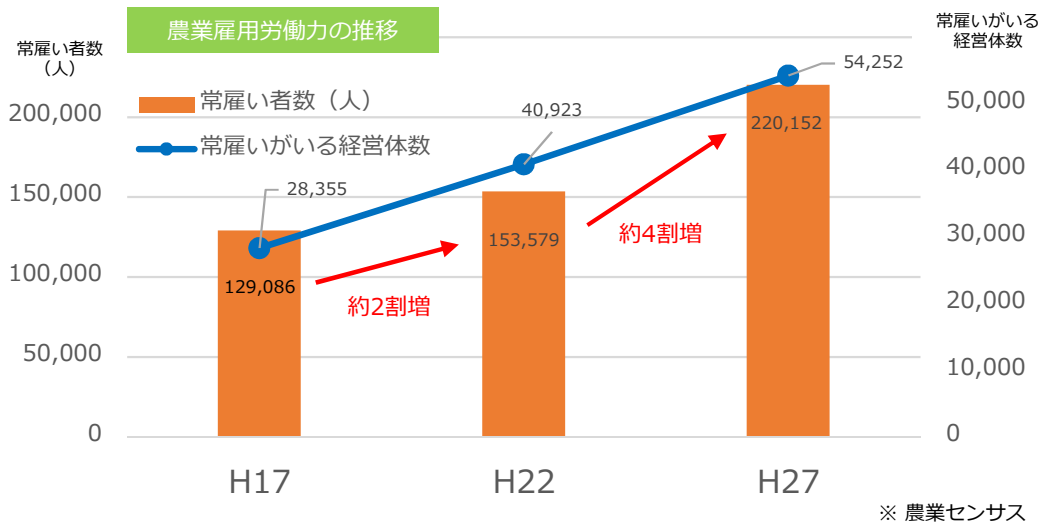
- コクヨ(株)が子会社で障害者7名を雇用し、葉菜類を栽培。
- 特性を的確に見極めることで播種等で作業効率を向上。
- 障害者就労施設からも年間延べ約6千人の障害者を受け入れ。



サラダほうれん草を栽培

- 農福連携（農業と福祉の連携）は、障害者が農業分野での活躍を通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組。
- 農福連携の取組は、障害者の就労や生きがい等の場の創出となるだけでなく、農業就業人口の減少や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながるもの。

農業現場で高まる雇用労働力ニーズ



実際に農福連携に取り組んだ効果を実感

農業経営体への効果

農福連携に取り組む農業経営体の、

- **76%**が「障害者を受け入れて**貴重な人材**となった」と認識 (n = 109)
- **57%**が「労働力確保で**営業等の時間が増加**」と認識
- **78%**が5年前と比較して**年間売上が増加** (n = 120)

障害者にとっての影響

農福連携に取り組む障害者就労施設の、

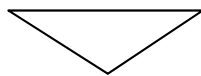
- **79%**が「**利用者が**体力がついて**長い時間働けるようになった**」、**62%**が「**利用者の表情が明るくなった**」と回答 (n = 573,606)
- **74%**が過去5年間の**賃金・工賃が増加** (n = 606)

- 農業現場では、様々な種類の作物が生産され、それぞれ多岐にわたる作業が必要（加工等を含む）。障害者が取り組みやすいよう工夫することで、働き手としての可能性が拡大。
- 自らの経営の中で、生産工程や作業体系等の見直しを行い、生産の拡大など農業経営の発展につながっている事例も。

障害者視点で農作業の体制を整備 (農業経営体における障害者雇用事例)



- 一連の作業工程を細分化し、それぞれの作業を標準化
- 誰もが作業を担えるような器具を開発
- 作業指示が伝わりやすいよう明確化したり、作業を難易度別に区分



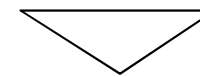
<生産工程の効率化を図り、コスト意識を持ちながら生産を拡大>

障害者雇用数に比例し売上が6倍に

障害者ごとの強みをいかした作業チームの編成 (障害者就労施設の農業参入事例)



- 障害者それぞれ「収穫適期の判断ができる」、「体力がある」、「コミュニケーションが得意」等の特徴
- 各人の強みを相互にいかせるチームを編成し、連携して作業
- 作業効率が向上し、障害者だけでの作業も可能に



<障害者のそれぞれの強みが発揮されるよう作業を効率化>

適材適所の配置等により売上が4割増加

- 農福連携が持続的に実施されるには、農業経営が経済活動として発展していくことが重要。
- 農福連携を全国的に広く展開し、裾野を広げていくには「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていかない」といった課題に対し、官民挙げて取組を推進していくため、農福連携等推進会議において、農福連携等推進ビジョンを策定。

現場等における課題

- 知らない**
 - 農福連携という取組自体がよく知られていない、そのメリットが十分浸透していない。
- 踏み出せない**
 - 農業サイドと福祉サイドの双方ともお互いに理解を深める必要。
 - 農福連携を通じた農業経営の発展や人材育成に手間や費用がかかるのではないか（コストへの対応）。
- 広がらない**
 - 農福連携の取組を全国的に広く展開していく必要性。
 - 経済界、消費者等も巻き込んだ社会全体への広がりが見えていない。

＜農福連携等推進ビジョンの構成＞

1 認知度の向上

- ・ 定量的データの解析によるメリットの客観的な提示
- ・ 農福連携で生産された商品の消費者向けPR活動
- ・ 東京オリパラに合わせた戦略的プロモーションの実施

2 取組の促進

- ・ ワンストップで相談できる窓口体制の整備
- ・ ニーズをつなぐマッチングの仕組みの構築
- ・ 働きやすい環境整備と専門人材育成
- ・ 農福連携の特色を生かした6次産業化等、経営発展をめざす取組の推進

3 取組の輪の拡大

- ・ コンソーシアムの設置等、国民運動を展開するための基盤の形成
- ・ 関係団体等での横展開の推進



関係省庁から構成される農福連携等推進会議

I 農福連携等の推進に向けて

農福連携は、農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組
年々高齢化している農業現場での貴重な働き手となることや、障害者の生活の質の向上等が期待

農福連携は、様々な目的の下で取組が展開されており、これらが多様な効果を発揮されることが求められるところ

持続的に実施されるには、農福連携に取り組む農業経営が経済活動として発展していくことが重要で、個々の取組が地域の農業、日本の農業・国土を支える力になることを期待

農福連携を全国的に広く展開し、裾野を広げていくには「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていない」といった課題に対し、官民挙げて取組を推進していく必要

また、ユニバーサルな取組として、高齢者、生活困窮者等の就労・社会参画支援や犯罪・非行をした者の立ち直り支援等、様々な分野にウイングを広げ、地域共生社会の実現を図ることが重要（SDGsにも通じるもの）

農福連携等の推進については、引き続き、関係省庁等による連携を強化

II 農福連携を推進するためのアクション

目標：農福連携に取り組む主体を新たに3,000創出*

1 認知度の向上

- 定量的なデータを収集・解析し、農福連携のメリットを客観的に提示
- 優良事例をとりまとめ、各地の様々な取組内容を分かりやすく情報発信
- 農福連携で生産された商品の消費者向けキャンペーン等のPR活動
- 農福連携マルシェなど東京オリンピック・パラリンピック等に合わせた戦略的プロモーションの実施

2 取組の促進

○ 農福連携に取り組む機会の拡大

- ワンストップで相談できる窓口体制の整備 ・スタートアップマニュアルの作成
- 試験的に農作業委託等を短期間行う「お試しノワーク」の仕組みの構築
- 特別支援学校における農業実習の充実
- 農業分野における公的職業訓練の推進

○ ニーズをつなぐマッチングの仕組み等の構築

- 農業経営体と障害者就労施設等のニーズをマッチングする仕組み等の構築
- コーディネーターの育成・普及
- ハローワーク等関係者における連携強化を通じた、農業分野での障害者雇用の推進

○ 障害者が働きやすい環境の整備と専門人材の育成

- 農業法人等への障害者の就職・研修等の推進と、障害者を新たに雇用して行う実践的な研修の推進
- 障害者の作業をサポートする機械器具、スマート農業の技術等の活用
- 全国共通の枠組みとして農業版ジョブコーチの仕組みの構築
- 農林水産研修所等による農業版ジョブコーチ等の育成の推進
- 農業大学校や農業高校等において農福連携を学ぶ取組の推進
- 障害者就労施設等における工賃・賃金向上の支援の強化

○ 農福連携に取り組む経営の発展

- 農福連携を行う農業経営体等の収益力強化等の経営発展を目指す取組の推進
- 農福連携の特色を生かした6次産業化の推進 ・障害者就労施設等への経営指導
- 農福連携でのGAPの実施の推進

3 取組の輪の拡大

- 各界関係者が参加するコンソーシアムの設置、優良事例の表彰・横展開
- 障害者優先調達推進法の推進とともに、関係団体等による農福連携の横展開等の推進への期待

III 農福連携の広がり

「農」と「福」のそれぞれの広がりを推進し、農福連携等を地域づくりのキーワードに据え、地域共生社会の実現へ

1 「農」の広がりへの支援

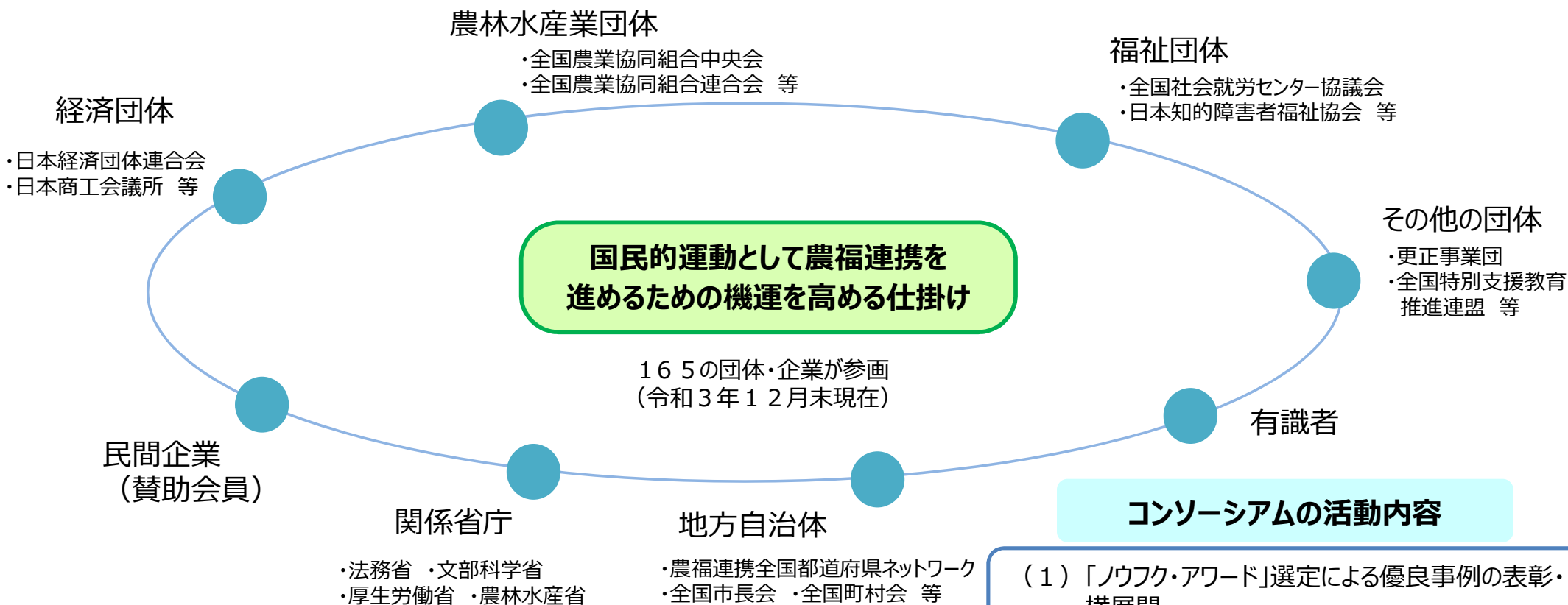
林業及び水産業において、特殊な環境での作業もあることにも留意しつつ、障害特性等に応じた、マッチング、研修の促進、経営発展を目指す取組の推進、林・水産業等向け障害者就労のモデル事業の創設

2 「福」の広がりへの支援

高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者等の働きづらさや生きづらさを感じている者の就労・社会参画の機会の確保や、犯罪や非行をした者の立ち直りに向けた取組の推進

- 国、地方公共団体、関係団体等はもとより、経済界や消費者、更には学識経験者等の様々な関係者を巻き込んだ国民的運動として農福連携等を展開していくため、令和2年3月、各界の関係者が参加し、農福連携等を応援するコンソーシアムを設立。

農福連携等応援コンソーシアムの構成



コンソーシアムの活動内容

- (1) 「ノウフク・アワード」選定による優良事例の表彰・横展開
- (2) 農福連携等を普及・啓発するためのイベントの開催
- (3) 農福連携等に関係する主体の連携・交流の促進
- (4) 農福連携等に関する情報提供 等

コンソーシアム入会に関するお問合せ先

農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室

TEL : 03-3502-0033

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/kouryu/200313.html>

ノウフク・アワード2021について

- 全国で農福連携に取り組む団体・企業や個人を募集し、農福連携の優れた取組をノウフク・アワードとして表彰。国民運動としての機運を高め、農福連携の全国的な展開につなげることを目的として開催。
- 令和2年度にノウフク・アワード2020を初開催。令和3年度のノウフク・アワード2021については、受賞者を令和4年2月8日に発表し、表彰式を令和4年3月8日に開催予定。
- ノウフク・アワード2021においては、「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」との観点から優れた取組を表彰するとともに、農福連携の新たな動きや広がりに着目し、「フレッシュ賞」（取組開始5年以内の事例）、「チャレンジ賞」（「農」の広がりや「福」の広がりに取り組む事例）を新設。

ノウフク・アワード2021

「グランプリ」「審査員特別賞」「優秀賞」

（人を耕す、地域を耕す、未来を耕すとの観点からの優れた取組の表彰）

- 障害者の特性に応じた作業方法の工夫による継続的な障害者雇用への取組
- 障害者の手作業による高品質な伝統野菜の生産・加工への取組 等



「フレッシュ賞」（取組開始5年以内の優れた取組）

- 福祉事業のネットワークを設立し、ビルの屋上を利用した都市養蜂を実施
- 薬用作物や野菜を栽培するとともに、ドレッシングやジャム等の加工品を生産
- 農福連携による高級イチゴの品質向上・ブランド化への取組 等

「チャレンジ賞」（「農」や「福」の広がりに向けた取組）

- 特別支援学校とJAの連携により、生徒が農家に出向いて農作業体験を実施
- 農作業、薪材生産、漁具修繕等の軽作業を組み合わせた農林漁業×福祉連携
- 多品目生産対応の農産品加工場を県内初で設立した6次化への取組 等

農福連携の更なる広がりへ



みんなで耕そう！人・地域・未来の豊かな未来

新しくフレッシュ賞とチャレンジ賞を創設
ノウフク・アワード2021

エントリー受付中!

2021年 9月16日(金)～11月12日(金)

noufuku.jp/award

農福連携推進センター システム

「ノウフク・アワード2021」 受彰25団体

詳しい取組概要は
こちら「QRコード」



No. 4 静岡県 浜松市
京丸園株式会社
 ・障害者と健常者の垣根がないユニバーサル農業の取組
 ・農作業や施設環境は障害者目線で工夫

グランプリ

No. 7 京都府 京田辺市
さんさん山城
 ・地域特産・地産地消・6次産業・地域活性化の取組を推進
 ・ノウフクJASと京野菜の普及啓発、地産地消に貢献

グランプリ

No. 2 群馬県 前橋市
社会福祉法人ゆずりは会 菜の花
 ・平均工賃が全国平均の3倍とモチベーション維持に寄与
 ・利用者にあった作物を栽培し年間就労の維持に貢献

**審査員特別賞
(人を耕す)**

No. 5 新潟県 佐渡市
**特定非営利活動法人立野福祉会 障がい者就労
トレーニングファームチャレンジド立野**
 ・農福連携が地域活性化や地域農業の維持に貢献

**審査員特別賞
(地域を耕す)**

No.10 徳島県 徳島市
株式会社菜々屋
 ・JAと連携し障害者と親和性の高い有機農業を推進
 ・農作業受託を行い地域の農業労働力に貢献

**審査員特別賞
(未来を耕す)**

No.11 高知県 安芸市
安芸市農福連携研究会
 ・生きづらさを抱えた者への理解が広がり地域活性化に貢献
 ・農福現場の一つ一つの課題解決への取組の推進

審査員特別賞

No. 8 大阪府 和泉市
株式会社いずみエコロジーファーム
 ・ノウフクJAS取得し消費者に対してノウフクの普及に尽力
 ・販路・雇用・賃金の安定が地域農業の維持に貢献

優秀賞

No. 9 和歌山県 紀の川市
**社会福祉法人一麦会 ソーシャルファーム
もぎたて**
 ・付加価値のある商品作り等中山間地域の維持・発展に貢献

優秀賞

No.12 宮崎県 宮崎市
一般社団法人STEPUP CoCoRo事業所
 ・矯正者も受け入れ、再犯防止や更正支援に貢献
 ・農福連携が地域の中心的担い手の育成に貢献

優秀賞

No.13 鹿児島県 龍郷町
株式会社リーフエッチ あまみん
 ・障害者への個別支援及びQOLの向上への取組
 ・自治体・商工会等と連携し販路の開拓や事業創出に貢献

優秀賞

No. 1 青森県 おいらせ町
社会福祉法人誠友会 工房あぐりの里
 ・農福連携の取組が地域農業の維持・交流人口の増加に貢献
 ・企業・農業経営体・社会福祉法人等、多様な連携

優秀賞

No. 3 千葉県 木更津市
特定非営利活動法人 一粒舎
 ・農地の受け手となり荒廃農地の発生抑制に貢献
 ・観光農園と施設園芸により高工賃の実現

優秀賞

No. 6 三重県 鈴鹿市
株式会社イシイナーセリー
 ・障害者雇用を通じて地域の植木産業を支える取組を推進
 ・高賃金の実現と一般就労へのつながりに貢献

優秀賞

フレッシュ賞

No.14 新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク
(東京都新宿区)

No.15 特定非営利活動法人わっこ谷の山福農林舎
(長野県東筑摩郡筑北村)

No.16 CuRA! (新潟県新潟市)

No.17 株式会社JAぎふ はっぴいまるけ
(岐阜県岐阜市)

No.18 遊士屋株式会社 (三重県伊賀市)

No.19 うりずんファーム ウィルチャーファーム
(沖縄県沖縄市)

チャレンジ賞

No.20 社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団
(青森県平内町)

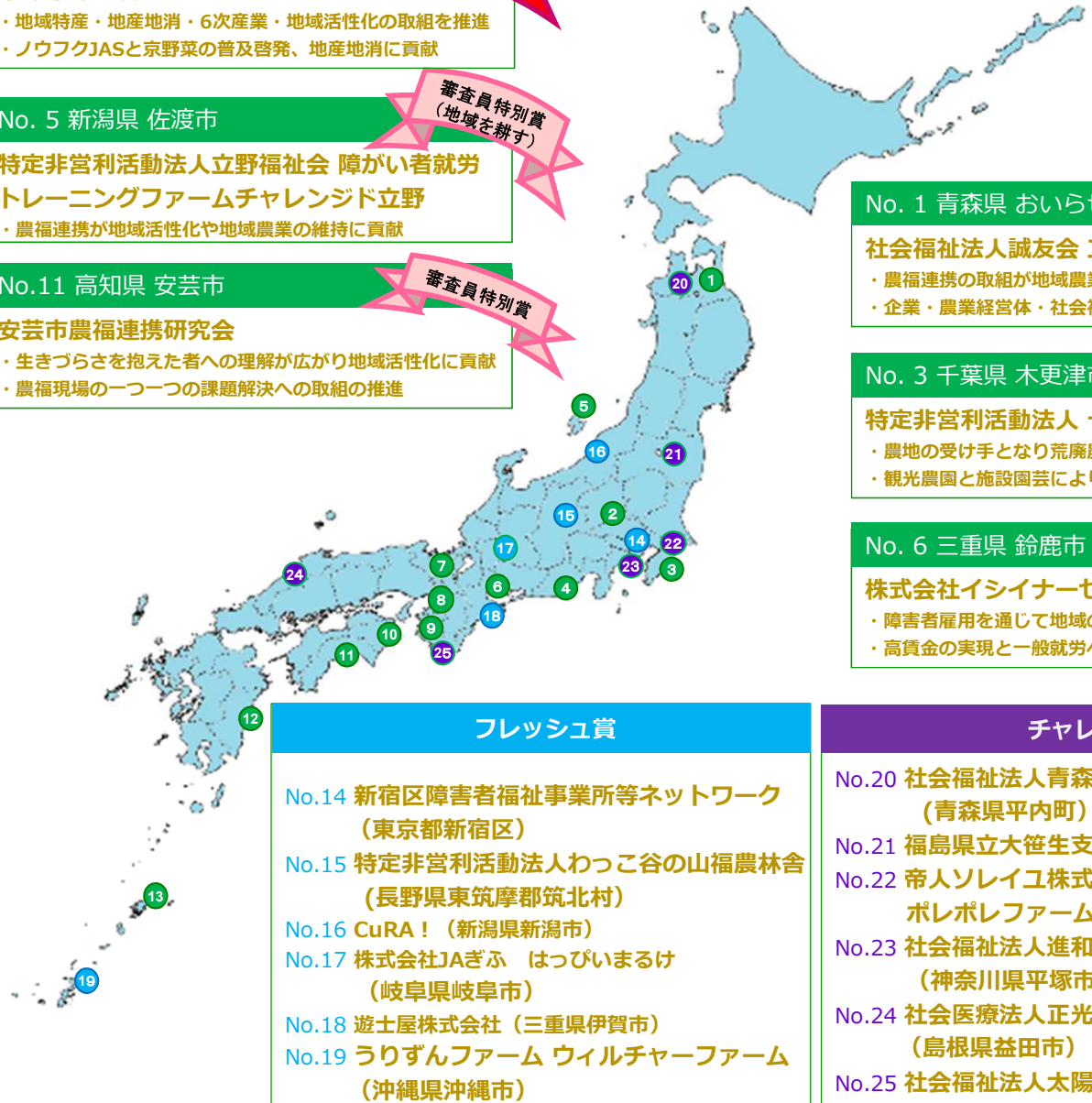
No.21 福島県立大笹生支援学校 (福島県福島市)

No.22 帝人ソレイユ株式会社我孫子農場
ポレポレファーム (千葉県我孫子市)

No.23 社会福祉法人進和学園しんわろネッサンス
(神奈川県平塚市)

No.24 社会医療法人正光会さんさん牧場
(島根県益田市)

No.25 社会福祉法人太陽福祉会 (和歌山県御坊市)



<対策のポイント>

農福・林福・水福連携の一層の推進に向け、**障害者等の農林水産業に関する技術習得**、**多世代・多属性が交流・参加するユニバーサル農園の開設**、**障害者等の作業に配慮した生産・加工・販売施設の整備**、**全国的な展開に向けた普及啓発**、**都道府県による専門人材育成の取組**等を支援します。

<事業目標>

農福連携に取り組む主体を新たに創出 (3,000件 [令和6年度まで])

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 農福連携支援事業

障害者等の農林水産業に関する技術習得、作業工程のマニュアル化、ユニバーサル農園の運用等を支援します。

【事業期間:2年間、交付率:定額(上限150万円等)】

2. 農福連携整備事業

障害者等の作業に配慮した生産施設、ユニバーサル農園施設、安全・衛生面にかかる附帯施設等の整備を支援します。

【事業期間:最大2年間、交付率:1/2(上限1,000万円、2,500万円等)】

3. 普及啓発・専門人材育成推進対策事業

農福・林福・水福連携の全国的な横展開に向けた取組、農福・林福・水福連携の定着に向けた専門人材の育成等を支援します。

【事業期間:1年間、交付率:定額(上限500万円等)】

1. 農福連携支援事業



農産加工の実践研修



養殖籠補修・木工技術習得



作業マニュアル作成 ユニバーサル農園*の運用



※ 将来の農業現場での雇用・就労を見据え、多世代・多属性の者が利用できる体験農園

2. 農福連携整備事業



農業生産施設 (水耕栽培ハウス)



苗木生産施設



養殖施設



休憩所、トイレの整備



園地、園路整備



処理加工施設

3. 普及啓発・専門人材育成推進対策事業



普及啓発に係る取組



人材育成研修

〔(関連事業) 優先採択等の優遇措置を実施〕

- ・強い農業づくり総合支援交付金
- ・林業・木材産業成長産業化促進対策
- ・水産多面的機能発揮対策事業 等

【お問い合わせ先】 農村振興局都市農村交流課 (03-3502-0033)

<事業の流れ>

